

学校法人函館大谷学園
函館大谷短期大学
機関別評価結果

平成22年3月18日
財団法人短期大学基準協会

函館大谷短期大学の概要

設置者	学校法人 函館大谷学園
理事長名	福島 憲成
学長名	福島 憲成
ALO	江端 深雪
開設年月日	昭和38年4月1日
所在地	北海道函館市鍛冶1-2-3

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
コミュニティ総合学科		40
こども学科		70
	合計	110

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	福祉専攻	25
	合計	25

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

函館大谷短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成22年3月18日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成20年7月24日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学を設置する学校法人函館大谷学園は、明治21年に創設された六和女学校を源流とし、明治34年に北海道開拓に熱心であった大谷派本願寺が経営を担い、明治35年には函館大谷女学校と改称し、大谷の精神と伝統を受け継ぎ、地域の要請にこたえて、昭和38年に函館大谷女子短期大学を開学し、今日に至っている。

建学の精神は、親鸞聖人の開顕せられた真の仏教「真宗（まこと・むね）」に基づく全人格的人間教育であり、その教えに基づき人間の根本問題を学びの原点とし、かけがえのない「わたし一人」の発見と自覚、そして「生まれた意義と生きる喜び」を見出し、新しい世紀を創造できる人間の育成を教育理念としている。教育目的は、「人間性」、「自主性」、「積極性」、「協調性」であり、地域の産業・商業・経済・保育・介護福祉などの分野で活躍できる人材を育成しており、地域の要請にこたえている。建学の精神・教育理念や教育目的は、宗教行事、宗教科目、宗教と関連ある講演、公開講座など仏教精神を通して、学生や教職員、更に学外へと広く周知を図っている。

教育課程は、バラエティに富んだ科目を設定している。

専任教員は、短期大学設置基準に定める教員数を確保している。校地・校舎面積、講義室及び演習室などは十分であり、各種機器なども整備され、活用されている。

各授業科目の単位の認定方法は、各担当教員が、出席状況、授業態度の把握、レポート提出、筆記試験と総合評価により、対応している。

社会的活動については、地域社会への貢献が当該短期大学の存在理由となっている。そのため、地域社会と密着した社会的活動を幅広く展開している。公開講座、地域社会活動への教員の派遣、高大連携への取り組みだけではなく、地域社会の要請にこたえるものとして、学生を地域のボランティア活動に積極的に参加させている。

理事会、評議員会は監事の出席を含めて、寄附行為に基づき適切に運営されている。当該学校法人の重要案件に係る事項は、法人が設置する教育機関の長等で構成される学園会議において協議され共有化されている。教授会は、学則及び教授会規程に基づき開催され、当該短期大学の教育研究上の意思決定機関として適切に運営されている。

財務計画については、理事会において、今後5年間の学生生徒見込み数に基づく収支状況のシミュレーションが定期的に示され、協議されている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 退学者については、クラスアドバイザー等のきめ細かな学生指導が行われ、1ないし3パーセント程度にとどまっている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 「函館大谷短期大学特別奨学金」や「函館大谷学園貸与奨学金」などにみられるように奨学金制度が充実している。
- 就職支援については、就職部とアドバイザー等が連携をとり学生個々に細やかな指導を実施し、地元への高い就職率に反映されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地域社会に対して充実した公開講座を開催し、生涯学習センターの設置に伴い、更に講座数を増加させている。
- 地域社会との密接な関係を築くためのコミュニティ放送局FMラジオ講座への教員派遣や、地域住民を対象にしたカウンセリングサービスを積極的に実施している。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域(合・否)と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- シラバスについては、教科書・参考書・参考文献等を示すなどの改善が望まれる。
- コミュニティ総合学科における履修人数の極端に少ない科目については、改善策の検討が望まれる。
- コミュニティ総合学科において、4 カテゴリー・13 ユニット制の抜本的見直しを検討されたい。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教育成果を高めるために、図書館の積極的利用を図ることが望まれる。

評価領域Ⅳ 財務

- 財務の安定のために、余裕資金はあるものの、短期大学部門及び学校法人全体の収支バランスの改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神は、親鸞聖人の開顕せられた真の仏教「真宗（まこと・むね）」に基づく全人格的人間教育であり、その教えに基づき人間の根本問題を学びの原点とし、かけがえのない「わたし一人」の発見と自覚、そして「生まれた意義と生きる喜び」を見出し、新しい世紀を創造できる人間の育成を教育理念とし、学生や教職員が共通に理解するために、仏式の入学式、卒業式、宿泊研修、別院参拝、花まつりや報恩講等の宗教行事などを通じて、学生や教職員に周知している。

建学の精神に基づいた教育目的としては「人間性」、「自主性」、「積極性」、「協調性」を掲げ、それを基に、教育目標として「奉仕できる人」、「豊かな人間関係を築ける人」、「常に向上しようとする人」、「想像力豊かな人」、「持続性のある人」、「活力にあふれた人」、「高いプロ意識を持つ人」の七つの具体的ビジョンを示している。この七つの目標が、各学科の目標の基本となり、日常の教育活動の中に生かされ、地域の産業・商業・経済・保育・介護福祉などの分野で活躍できる人材を育成しており、地域の要請にこたえている。

教育目的・目標の共通理解を図るため、3月に新入生対象に実施される「入学前個人面談」においても徹底を図り、また教職員へは、各年度当初に各科の教育目的・目標を具現化するための方針案が教員会議で提示され、広く周知を図っている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

函館市内の八つの高等教育機関で構成する「キャンパスコンソーシアム函館」が当該地域社会をより理解するため様々なテーマで企画する講座は、教養系授業科目の「現代地域学論」として単位認定を行っている。

こども学科では、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の両方を取得する学生は、科目指定の関係から、ほとんどが必修科目になっている。

コミュニティ総合学科では、あらゆる分野で活躍できる人材、地域で求められる人材の育成を目指している。こども学科では、すべての人に対して温かな心と優しさを持ち、人間性豊かな保育者・支援者の育成を目的としている。

両学科ともシラバスについて、教科書・参考書・参考文献等を示すなどの改善が望まれる。

コミュニティ総合学科における履修人数の極端に少ない科目については、改善策の検討が望まれる。さらに、4 カテゴリー・13 ユニット制の抜本の見直しを検討されたい。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

専任教員は、短期大学設置基準に定める教員数が確保されているが、1 専任教員は、およそ 10 コマ前後の授業を担当し、教育研究上の業務量は非常に多くなっている。校地・校舎面積、講義室及び演習室などは十分であり、各種機器なども整備され、活用されている。

教育成果を高めるために、図書館の積極的利用を図ることが望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

学生の学力・能力に大きな差異がみられ、その指導に各教科担当教員、クラスアドバイザー、事務職員が一体となり教育目標達成に努力している。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学に関する支援については、入学志願者への説明を入試要項・キャンパス説明会・大学説明会、高等学校教員には入試説明会などにおいて、親切丁寧に行われている。入学後もクラスアドバイザー等による細やかな指導が行われている。また、ウェブサイトにも入試情報等が分かりやすく掲載されている。学習支援は、全教員がオフィス・アワーを設けて学習上の問題・悩みなどに関して解消できる体制を整えているなど、全学あげて組織的に行われている。

評価領域Ⅵ 研究

紀要の発刊による研究成果発表機会の確保、ウェブサイトでの研究活動の一部公開を含め、各教員が個々に研究活動の実践を行っている。学科内でのグループ内共同研究は行われていないため、組織的に立ちあげることで、外部資金の獲得を含め、より活発な教育研究の展開が期待される。

評価領域Ⅶ 社会的活動

地域社会への貢献が当該短期大学の存在理由となっている。そのため、地域社会と密着した社会的活動を幅広く展開している。公開講座、地域社会活動への教員の派遣、高大連携への取り組みだけでなく、地域社会の要請にこたえるものとして、学生を地域のボランティア活動に積極的に参加させている。

地域社会に対して充実した公開講座を開催し、生涯学習センターの設置に伴い、更に講座数を増加させている。

地域社会との密接な関係を築くためのコミュニティ放送局 FM ラジオ講座への教員派遣や、地域住民を対象にしたカウンセリングサービスを積極的に実施している。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事会・評議員会は監事の出席を含めて、寄附行為に基づき適切に運営されている。当該学校法人の重要案件に係る事項は、法人が設置する教育機関の長等で構成される学園会議において協議され共有化されている。教授会は、学則及び教授会規程に基づき開催され、当該短期大学の教育研究上の意思決定機関として適切に運営されている。

評価領域Ⅸ 財務

財務計画については、理事会において、今後 5 年間の学生生徒見込み数に基づく収支状況のシミュレーションが定期的に示され協議されている。短期大学部門の過去 3 ヶ年の消費収支は、いずれも支出超過の状況にあるが、支出超過額は年々減少し、平成 20 年度ではほぼ均衡状態となっており、単年度の財務状況は改善がされている。また、平成 21 年度は全学科で入学定員が充足されている。

情報公開の対応は、ウェブサイトにおいて財務情報の詳細を公表している。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価活動は、学長・事務局長を含む自己点検評価委員会を中心に、各学科、各部、各委員会の責任者がかかわってきた。自己点検・評価の結果は、前年度の活動を総合的に見直し、次年度の指針として活用するよう努めている。今後は、各学科、各部署が自己点検・評価の結果を受け止め、有効に活用することが求められる。